

厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

小児ビタミン D 欠乏症の実態把握と発症率の推定

分担研究報告書

乳幼児の栄養管理ガイドラインとの連携

研究分担者 楠田 聡 東京女子医科大学母子総合医療センター所長・教授

研究要旨：本研究班の小児ビタミン D 欠乏症の実態把握と発症率の推定の結果、本邦でも一定頻度の発生が明らかとなった。そこで、平成 19 年に作成された「授乳・離乳の支援ガイド」について、厚生労働科学研究の研究班で改定案が作成されているので、小児 VitD 欠乏症の予防のための栄養管理方法を本研究班から提言する必要がある。

A．研究目的

乳幼児の栄養は、一生の健康維持にとって大変重要である。そこで、平成 19 年に作成された「授乳・離乳の支援ガイド」に従い、保護者に栄養指導が行われている。しかしながら、このガイドが作成されてから約 10 年が経過し、栄養に関する新たな多くの科学的知見が蓄積された。そこで、厚生労働科学研究「妊産婦及び乳幼児の栄養管理の支援のあり方に関する研究」（研究代表者：楠田聡）の研究班が組織され、現行ガイドの改正案の作成作業が行われている。本研究班で小児 VitD 欠乏症の発生実態が明らかとなった場合には、本欠乏症を予防するために、本研究班から「妊産婦及び乳幼児の栄養管理の支援のあり方に関する研究」班に提言する必要がある。そこで、両研究班の連携を研究目的とする。

B．研究方法

本研究班で小児ビタミン D 欠乏症の実態把握と発症率の推定を行う。そして、一定頻度で小児ビタミン D 欠乏症が発生している実態が明らかとなれば、本症を予防するための栄養管理のあり方を「妊産婦及び乳幼児の栄養管理の支援のあり方に関する研究」へ提言し、改定する「授乳・離乳の支援ガイド」の内容に反映させる。

（倫理面への配慮）

改定「授乳・離乳の支援ガイド」への提言なので、特に配慮の必要無し。

C．研究結果

小児 VitD 欠乏症の発症率の推定のために実施した病院を対象としたアンケート調査の結果、諸外国と同様に一定頻度の発症が明らかとなった。本症予防のためには、授乳および離乳期の栄養指導も重要である。そこで、改定する「授乳・離乳の支援ガイド」に、小児 VitD 欠乏症予防のための栄養指導の在り方を追記する必要があると判断された。

D．考察

本研究班の調査の結果、一定頻度での小児 VitD 欠乏症の発生が明らかとなった。したがって、本症の予防のための栄養管理、サプリメントの必要性について、検討する必要がある。また、改定する「授乳・離乳の支援ガイド」では、本症予防のための栄養指導について言及する必要性がある。

E．結論

改定する「授乳・離乳の支援ガイド」に、小児 VitD 欠乏症予防のための追記を本研究班から提言する必要がある。

F．健康危険情報
無し。

G．研究発表
1．論文発表
無し。

2．学会発表
無し。

H．知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1．特許取得
無し。
2．実用新案登録
無し。
3．その他
無し。